
世界の調和者

yuuyas

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の調和者

【Nコード】

N6499Y

【作者名】

yuyas

【あらすじ】

ある日、神宮正和は少女を助けて死んでしまった。だが目を覚ますとそこには純白の世界、さらに目の前で絶世の美女が頭を下げていた？その人は自分のことを神と名乗って・・・「彼方を私の神認者になってもらって、私の担当している世界に生まれ変わっていただきその世界の調和者になって下さい！」え？なんで！？

よくある異世界転生ものです。魔法や魔物がいたりのファンタジーもので、主人公最強、ハーレムありく主人公朴念仁く、人が死んだりします。この様なものが苦手なお方はご注意ください。

この作品は初の小説なので、誤字、脱字があると思いますが温かく見ててください。よろしくお願いします。

プロローグ（前書き）

初投稿です。以後よろしくお願いします。

ブローグ

「明日から夏休みだ」

じんぐつまさかず

俺、神宮正和は叫んでいた。

なぜ叫んだかって？だってね、去年の夏休みはさんざんだったんだ。

去年のこの日、なんか久しぶりに公園行きたいななんて思ってたたら

いきなり、男の子が出てきて道路に飛び出して行ったんだよ。

そしたら、曲がり角からトラックが出てきて男の子が轢かれそうになったんだ。

俺はとっさに飛び出して、男の子を抱え込んだ。

「痛っ」

奇跡的にどちらとも無傷と言うわけにはいかなかったようだ・・・

俺は激痛がする右腕の方を見ると中の肉が見えてた・・・

その後、男の子のお母さんが来て、物凄く感謝してくれて救急車まで呼んでくれた。

診察を請けたら、腕の皮がむけて肉が見えてただけだった。

折れてるかと思った・・・

で、このせいで俺は3週間右腕が使い物にならなくなり、

治ったと思ったら残りの1週間宿題に追われ

夏休みのさよならだ！

今年こそは遊びまくってやる！そんな事を思っていると
去年事故にあった公園に来ていた・・・

嫌な予感がする。

俺はこの場所からいち早く逃げるために、全力で逃げた。
へたれだって、しょうがないだろ

また遭^あつたら夏休み消えてしま^あうじゃないか。

しばらく走って、さっき通った交差点にいた。

「はあはあ」

500mぐらい思いつきり走った。疲れたぜ・・・

俺は顔を上げると横断歩道に5、6歳の女の子が転んでいた。

信号が点灯し始めた、すごく痛かったのだろう。

危ないから女の子を助けようと

「プップ」

赤信号なのにワゴン車が曲がり始めた。後ろにはパトカーがいる。
盗難車だろう。ん？あの子めっちゃ危なくない？

（助けなきゃ！）

俺は全力で走り、少女を抱えた。

また夏休みが消えたな。また来年夏休み。

「バーン！」

・ 音と一緒に俺の体に激痛が放ち、それと共に意識が消えていった・

そして、一人の少年が少女助けて命を落とした。

プロローグ（後書き）

読んで下さった方ありがとうございます。

この話で主人公がどんな人か分かったと思います。危険なのを分かっている人も人を助けてしまう。主人公体質、これ以外にも人助けしているのですがそれは、ストックが切れたときに書かせていただきます。と思っています。

次回は神との対面で、ここで色々能力をもらいます。
次話も読んでもらえたら嬉しいです。

神の世界（前書き）

2回目の投稿です。この作品で結構重要な神の登場です。名はヘルシスです。どうぞ、お楽しみください。

神の世界

「うゝ」

真つ暗な世界だ。

体が重い、なんでだ？

何かあつたけ？

あれ？確か女の子を助けて、そのまま・・・

死んだ？

でも、なんで体に感覚あるんだ？

力を入れると動けそうだな。

俺は回りを確認するため目を開いた。

「なんだゝ？」

俺は驚いた。目の前には純白の世界で広がっていた。それと、「何であなた頭下げてるの？」

なんかわかんないけど目の前に金髪の女性が頭を下げていたのだ。

「すみませんでした！」

頭を下げながら腰を何度も折っては伸ばしを繰り返してた。
辛くないのだろうか？

あ、そうじゃなかった。

「あのくなんで頭を下げているの？」

「本当にすいませんでした」

やっと顔を上げてくれた。

それにしてもきれい過ぎるだろう。

目の前の女性は絶世の美女と言ってもおかしくは無いだろう。
それくらいの美貌《びぼう》だった。

「どうしたのですか？ぼつとして？」

あ、見とれてた。

「いえ、ちょっと考えごととして・・・それにしてもここ何所ですか？」

「ここですか？ここは神の世界という場所ですね」

「神の世界？」

「はい。神の世界。神々が住む世界です」

じゃあこの人は・・・

「じゃあ、あなたは神様？」

「はい！私は神です。神宮正和さん」

「何で俺の名前を？」

「当たり前ですよ。神なんですから名前ぐらいは誰でも言えます」

「あ、そっか。神様の名前も教えてください。」

「私ですか？私はヘルシスです」

「ヘルシス、あ！すいませんヘルシス様」

やばい呼び捨ててしまった。

「いいですよ、ヘルシスで。というか、敬語もやめてもらえたら嬉しいです。」

「わかりました。じゃあ、ヘルシスさんで」

「はい！」

良かった優しい神様で。

そういえば何でここにいるんだ？
だってここ神の世界だよね？

「ヘルシスさん。俺はなんでここにいるの？」

「あ、話してませんでしたね」

彼女は大きく息を吸ってから・・・

「彼方に私の神認者しんにんしゃになってもらって、私の担当している世界に生まれ変わっていただきその世界の調和者ちやうわしゃになって下さい」

え？なんで！？

「何ですか！？こんな何にも取り得の無い俺なんか。っていうか神認者や調和者ってなんですか？」

「あ、あんまり一氣に言わないでくださいよ」
「なんか、涙目になってるし。これって俺悪い？」
「つか神としての威厳なさ過ぎだろう。」

「なんか、静かになってしまった。居づらい・・・」
「しょうがない俺から言わないと・・・」

「すみません。一氣に言いすぎました。じゃあ、一つ一つお願いします」

俺って結構甘いかも。

どうやら落ち着いた様で口を開いた。

「ありがとうございます。まずは神認者ですね……………」

俺は彼女の長い話を聞いていた。

聞いた話だと神認者しんにんしゃと言うのは、

俺みたいに前の世界で死んだ奴がある一定の条件が揃えば、
神が認め—この世界（神の世界）に呼ばれて、生まれ変わり
神が干渉できない世界の乱れなどを直すものらしい。

さらに、この神認者ってのにえらばれた奴は

そいつを認めた神の、1000分の1

神神器の武器をもつ事が出来るようだ。

世界の調和者せかいのちやうわしや（以後調和者と訳す）は、

その世界で一人で世界の一番高位神がその者気に入り、
神の世界
ここに呼び出してその人に自分の担当している世界の調和者になっ
てもらって、

その世界に戻り暴走した神認者しんにんしゃや魔物の数を倒したりして調和する
ようだ。

そして、その人は神認者と一緒に神の力を受け取る事が出来る。

だが、力の桁が違う調和者はその神の10分の1の力を受け取れる
みたいだ。

だが、神器はもらえない。

なんで俺が選ばれたかはヘルシスさんに気に入られた事と、
事故に遭いそうになった人たちを助けたりした事で、
自分で言うのもなんだがその、心が優しいってというのが重要みた
いだ／＼
恥ずかしいな。

「誰に話しているんですか？」

えっ？なんで声に出していないはず。

「考えただけで思考は読めますよ。神ですから！」

「すごいっすね」

これしか言えない、今から考える事をやめよう。
読まれる。恐い

「でっ、話によると力と神器しんぎつてのをくれるみたいだけど・・・」

「あんまり、驚かないんですね？まあ、話が早くていいんですけど
ね」

「じゃあ、お願い」

「はい。まず、力を初めに」

あゝ眩しいなんて素晴らしい笑顔なのだろう。

バカな事を考えていると、

「では、いきますよ〜」

そんな事を言うと、ヘルシスさんはこっちによって来て

「ん〜〜〜〜」

え？唇にやわらかい感触が
キ、キ、キスしてる〜

「ぱっあゝ契約完了です。」

「なんで、キスなんですか〜」

俺はいきなりされた驚きとこんなきれいな人^神がキスしてくれた事の
嬉しさや恥ずかしさで混乱しながら言った。

「あ、人はキスを愛情表現でやるんですね、忘れてました。
今のは、契約のキスで神^{しんにんしゃ}が神認者^{しんにんしゃ}にすることです。
どうですか？力が沸いてきたはずですよ。」

確かに力が沸いてきた。さっきはキスで気づかなかったけどこれは
凄いな。

契約が親父だと最悪だな。ヘルシスさんで良かった。

俺は一人で安心してると苦笑いしているヘルシスさんに手招きされた。

「あの〜いいですか？」

「すみません」

「いいんですよ」

なんて最高の笑顔だ癒される〜

「次は、神器ですね。正和さんの神器は〜」「正和でいいよ。」え〜はい正和／／／」

顔を赤くしてる。なんでだ？まあいいか。

「えつと〜正和の神器はこれです。」

ヘルシスさんは右手に力を込めると白い粒子が集まってきた、一つに固まった。

その手には白色の刀が握られていた。

「これは？」

「これは、ホワイトウェポン白の武器です。」

見た目のまんまですけどね。両手出してください。」

言われた通りに両手を出すと、
ヘルシスさんが白銀の武器を粒子にして俺の手に重ねた。
彼女と俺の手の間が強く白く光った。

彼女は手を離すと「出来上がりです。」
と言ってきた。俺の体は何にも変化がない。

「何か武器をイメージしてください。何でもいいですよ。
基本的に真空の場所じゃなければ出せますよ。
一種の創造能力を武器限定にして空間に出しているだけですから」

俺は言われた通りに一本の短剣を想像してみると、
右手から何もかもが白い短剣が有った。

「すごい！」

「はい！消す方法は無くなれって念じれば消えます。
切れ味や精度は武器を想像した時のイメージが大切になります。
例えば何でも切れろって思えば何でも切れる武器の出来上がりで
す。」

武器の数などは想像の時に思ってください」

「わかりました」

俺は消えろと念じた。すると短剣が粒子に戻り、
右手に吸い込まれていった。

「なんてチート」

「はい、これは物理系最強武器ですから。他の神認者の方も持っていますけどね。」

これはほどでは無いですけどね。

あつ、でも物理以外でも空間、時空、特殊など色々ありますけど」
色々あるな。

俺はしばらくヘルシスさんと話した。

世界の名は「イニユート」と言い。詳しい事は転生した時に、勉強してくださいとのことだ。

神認者や調和者の力も転生した後で自分で見つけてくれと。

「なんで？」って聞くと、

「転生する前に教えてしまつとそれを意識してしまつて、

この世界で暴走してしまふので言えません。」

こつ彼女が言っているのだからしょうがないとしよう。

転生後は記憶は残り、何かが遭ったら俺の夢の中で話ができるって言っていた。

ビックリ！

「そろそろ、行くときですね。こつちに来てください。」

言われた通りにヘルシスさんの所に行く。

「ありがとうございます。ヘルシスさん」

「いえいえ、これからお願いしますね。正和」

につこりと微笑んでいた。幸せだ

「では転生を開始します。空間くうかんでんせいじゆつ転生術！」

彼女がそう言つと俺の意識が無くなり、
再び真っ黒な空間に入って行った。

神の世界（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございます。今回は正和が死んだ後に来た神の世界のお話です。結構重要な話でした。神認者や、調和者（世界の調和者）の説明難しかったです。改めて文才の無さを自覚しました・・・

次話は新章です。今までののはプロローグだったので、今までよりも頑張って投稿していこうと思います。次回もよろしくお願いします。

設定？（前書き）

設定です。今までの登場人物やその人達のステータスや使用魔法、登場魔物を書いていきます。あらわし方はE A S S S S S S X R 左から段々能力が上がっています。成人男性の平均がD とします。

この作品は、ギルドのランクや魔物、人、その他種族の強さでもこのあらわし方でいきます。無い場合は - で表します。
では、設定？です。どうぞ！

設定？

主要人物、その他種族

名 神宮 じんぐうまさかず 正和（男）

種族 人族 歳 14歳

体重 56kg 身長167cm

容姿 上の中

髪は黒の長さは首の中間くらい
目の色は黒

性格 誰かが困っていたら後先考えずに助けに行ってしまう。
女性の恋心には全く気づかない。
負けず嫌い、やさしい、努力家、朴念仁

ステータス 知力S 力A 走力S 体力A 精神B

集中A 回復C 運C

（ヘルシスから力をもらった後）

知力S 力SSS 走力SSS 体力SSS 精

神B 集中A 回復SSS 運C

（魔法ステータス）

魔力量 - 、精製度 - 、戦闘力C（魔法が使えないので）

属性 火 - 、水 - 、風 - 、土 - 、雷 - 、闇 - 、光 - 、無 - 、

氷 - 、時 - 、重力 - 、空間 - 、

特殊能力

ホワイトウェポン
白の武器、？？？、？？？、？？？、？？？、？？？、

~~~~~

名 ヘルシス（女）

種族 神族 歳 ? 歳

体重 ? k g 身長 1 7 2 c m

顔 上の上

髪は金で長さが腰までである  
目の色は金

性格 何事も完璧にやる。恥ずかしがりや。  
完ぺき主義、恥ずかしがりや

|       |      |     |      |          |      |
|-------|------|-----|------|----------|------|
| ステータス | 知力 R | 力 R | 走力 D | 体力 S S S | 精神 R |
| 集中 R  | 回復 R | 運 R |      |          |      |

魔力量 R、精製度 R、戦闘力 R

属性 火 R、水 R、風 R、土 R、雷 R、闇 R、光 R、無 R、

氷 R、時 R、重力 R、空間 R、

特殊能力  
ホワイトウェポン

白の武器、神気、透し、思考解読、瞬間転移、夢介入、空間制御、  
時間制御、

モブキャラ

男の子（男）

特にないので無し

女の子（女）

特にないので無し

女のこのお母さん（女）

特にないので無し

## 登場魔法

・空間転生術くうかんでんせいじゅつ

使用者 ヘルシス

級 神級

属性 空間

範囲 自分から5m

人数 一人

威力 使用者の空間魔力と魔力量に比例する。

説明

別空間に飛ばしたい物質、生物を指定して飛ばす。

飛ばす空間は神ではないとしてい出来ない。

術使用者が死んだ時に元の空間に戻る。

別空間内でも歳をとる。

空間の魔力と魔力量がSSS以上でないと使えない。

魔物

(登場しません)

## 設定？（後書き）

設定？でした。設定は章の終わりや、長ければ区切りのいい所でやっていきます。武器は5〜10個ぐらい溜まったら「武器設定」、道具は（以後アイテム）は30個ほど溜まればやろうと思います。次はいよいよ新章突入！です。

## 誕生（前書き）

yuyasです。この章は正和の転生先「イニユート」も世界観や正和の力について書こうと思います。さて、今回の話は短く正和がイニユートに産まれてくる話です。お楽しみください。

## 誕生

暗いな。

俺は確か・・・ヘルシスさんに神の世界だっけか？で会って・・・  
神  
しんにんしゃ  
神認者や調和者について話されて。

転生して、その世界の調和者になるんだっけか？  
あれ？つかここ何所だ？

俺はいきなりの状況に困惑していると  
行き成り激しい光が体全体を包んだ。  
眩しい！俺は声を出そうとすると

「おぎゃ〜おぎゃ〜」

ん？おぎゃ〜おぎゃ〜？  
な、なんだ！声がおぎゃ〜だと！  
よ、よし、れ、冷静になるんだ。  
まずは深呼吸を（スーハー、スーハ）  
OK 落ち着いた。声出すぞ〜

「おぎゃ〜おぎゃ〜」

・・・

なんじゃと〜！

何の嫌がらせだ！

俺が何をした！

14歳に赤ちゃんをやらせると！

精神的にきついだろ・・・ごめんよ、母さん。

俺は30秒間心の中で泣き叫んだ・・・

おっと、何かがそれだな。

まず俺は、転生して・・・

あつ、そっか転生したから赤ちゃんなのか！

なる。 (どうしようかと思ったよ。良かった)

「アーサー産めましたよ」

一人で安心感に浸っていると、

疲れきったような、だがとても美しい女性の声が聞こえた。  
誰だ？

「ああ、マリアご苦労様。

この子の名前どうする？ジルも考えるか？」

今度は、逞しい男の人の声が聞こえてきて、

そのままアーサーと呼ばれる男性が俺を抱き上げた。

「うん！かんがえる。なまえはね、オが付くなまえがいいなあ」

次は、幼い感じの男の子、多分ジルって子だろう。

その子の声が聞こえてきた。



「オですか？オ、オ、オ！オルツスなんて、どうですか？アーサー」

「オルツス。いい名前だ。それにしよう、この子は今からオルツス・ワースンだ！」

「おるっす。うん！いい、ぼくも、きにいったたよ」

三人で楽しそうに笑っている。

いいなあ、仲が良くて楽しそう。

それで、今の状況と話を聞くと俺がオルツス赤ちゃんで、産んでくれたのはさっきの女性マリヤみたいだな。

「オルツス、これからよろしくね」

女性マリヤが優しく俺の頭を撫でながら言ってくれた。

俺は新たな家族に迎えられ、新鮮な気持ちと家族の温かさを久しぶりに感じたせいか、ものすごく眠たくなってきた。

そして、俺はそんな気持ちを抱きながら深い深い眠りについていった。

こうして、このイニユートの世界に、  
神に世界の調和を任せられた一人の少年が誕生した。

## 誕生（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございます。この話では登場人物が増えます。オルツスは正和ですから、3人ですけどね。この三人の設定などはこの章の中間が終わりで設定？として投稿したいと思います。

第2章の「幼少時代」では主にこの4人＋村人＋ぼちぼち魔物で進めていこうかなと思います。増やしすぎると名前に困ってしまいますが、そこは頑張っていこうと思います！では、次話でもよろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6499y/>

---

世界の調和者

2011年11月21日15時42分発行